

患者さんが最も声をかけやすい 「事務職」

受付業務に就いています。
病院に来られた患者さんに、最初と
最後に出会う職種なので、笑顔
心がけています！

ちょっと
聞きそびれたことが
あるんですが…



はい、お伺いします！
……そのことに
詳しい担当者に
おつなぎしますね！

事務職は患者さんにとって一番身近な職種です

受付事務



健診機関の受付は検査を勧めたり、二次健診につなげやすいです！

医事課



助成制度についての理解を深めやすい立場です！

医師事務作業補助者



医師の近くにおいて、確認が取りやすい立場であることを活かしますね！

診療情報管理士



日々の診療情報からのデータを整理分析することでお役に立てます。

それぞれの事務職が持っている知識と多くの機会を生かしてできる肝Co活動がたくさんあります！多職種と連携することで大きな活動にもつながります。つなげ先をたくさん知っていることが強みです。

事務職の肝Co 活動事例



患者さんの話を聞き、必要な人や場所につなげることができます。

事務職の中でも、受付担当であれば、病院に来られた患者さんに最初と最後に会う機会があります。忙しい医師や看護師には聞くことができなかったことを、受付事務には気軽に聞けることもあります。このとき、患者さんの本音の思いに耳を傾け、必要に応じて他職種につなげるという大事な役割を担っています！



何か気になることはありますか？

ホップ★

肝炎ウイルス検査の受検に関するポスターを掲示し、声かけをする

すべての患者さんに受検勧奨の声かけをするのは大変なので、まずはポスターを貼って情報提供を行いましょう。しかし、患者さんは、自分が対象かどうかは判断しにくいので、問診やカルテなどから未受検者を見つけた際は、できるだけ声をかけましょう。

公費助成制度があることを伝える

助成制度を知らない患者さんもいます。制度の詳しい説明には自信がなくても、まずは制度があることを伝えるだけでもOKです！助成対象になる可能性があれば、制度に詳しい窓口を紹介しましょう。

ステップ★★

公費助成制度について詳細を伝える

請求業務に携わっていれば、制度について学んだり、必要書類、提出場所などの情報に触れる機会も多いはず。助成制度についてより詳しく調べることで、患者さんの負担を軽減できる情報を提供できるかもしれません。肝Coとしてのステップアップにもつながりますね。

対象者の拾い上げ

未受検者、未受診者、定期検査の未受診者、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の対象者を拾い上げ、積極的に声をかけていきましょう。

ジャンプ★★★

自分がいなくても説明できるようにリーフレットを作成する

肝Coとして他の人に頼りにされることは嬉しいことですが、自分が毎回対応できない場合もあります。そんなとき、誰でも説明できるわかりやすいリーフレットがあると便利です。自分で作成できないときは、拠点病院に相談してみましょう。その際にはぜひ事務目線で必要な情報を伝えてくださいね。

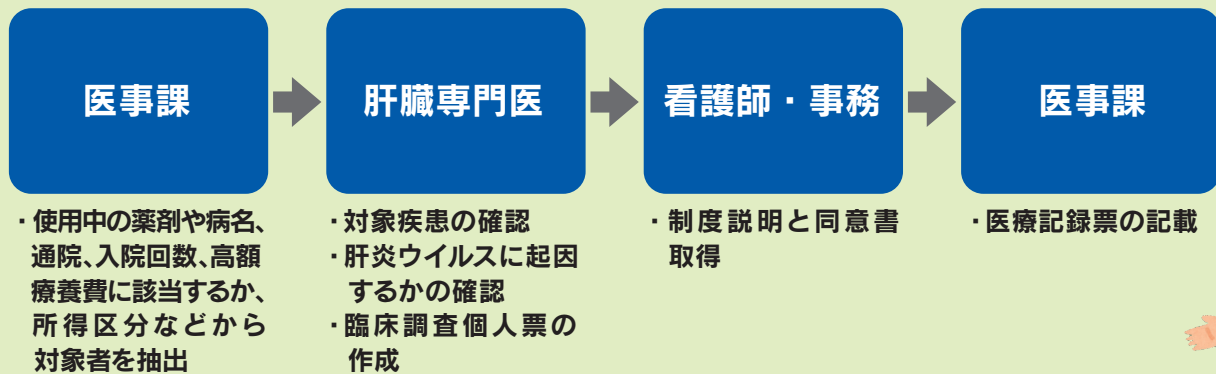


肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業は事務職が決め手！

助成制度によって患者さんの生活の負担が大きく軽減されることがあります。

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業を理解するのが難しいと思う方も多いと思います。しかし、この制度のキーパーソンは、事務職です！多職種と連携し、制度利用を勧めましょう！

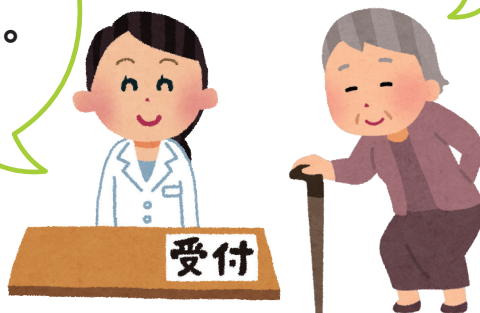
このような連携で制度利用を勧めている施設もあります



公費助成制度の詳細を知ることで、患者さんの負担軽減につながる場合があります。もし制度について自信がない時は、詳細を知っている人や都道府県の担当部署へボタンタッチをしましょう！

患者さんに必要な情報を伝えることができ、感謝の言葉や喜びの笑顔をもらえたら、大きなモチベーションになります！

こんにちは！
〇〇さん
今日も治療
がんばっていますね。
受給者証は
お持ちですか？



今回も
よろしくね

いつも同じ人が
声をかけてくれるから
安心感があるわ



先輩肝Coからのアドバイス

肝Coの研修を受ける前も、事務の仕事として制度の説明を行っていましたが、肝Coの研修を受け、自分が知識をつけていくことで、説明に自信がつき、その自信が患者さんの安心につながっている気がします。また自分のモチベーションにもつながっています！説明の回数を重ねることで自信が持てますよ。



施設に1人しか肝Coがいません。すべてを1人でやらなければいけないので大変なこともあります。合間合間でできることをやっています。わからないときは医師に相談していますし、拠点病院や県の担当部署と連携をとって活動しています。利用できるものは全部利用しちゃいましょう！1人で管理すると情報の把握はしやすいですが、活動の幅を広げるために仲間作りは必要です。

高齢者にとって移動手段は大きな問題の一つ。家族と連携して制度の利用につなげられたこともあります。患者さんや医師から頼りにされたり「こんな制度があったのか」と患者さんに喜ばれることがとてもうれしいです！拾い上げは大変ですが、努力が報われます。



一生懸命に肝Co活動に取り組む姿は、他の人の「手伝おう」「自分も肝Coになろう」という意欲につながります。

あなたの活動はきっと誰かが見えていますよ！